

地質調査所および農事試験場で発刊された土性図目録

Catalogue of Agronomic Maps Published by Geological Survey of Japan and
Agricultural Experiment Station of Japan

浜崎忠雄*・中井 信**

Tadao Hamazaki and Makoto Nakai

わが国で国の事業として土壌図作りが始められたのは明治の 10 年代である。明治政府は、明治 15 (1882) 年 11 月、農商務省地質調査所土性課にドイツから農林地質学者マックス・フェスカを招き、国別土性調査を開始した。そして最初に完成したのが「大日本甲斐国土性図」(明治 18 (1885) 年) である。フェスカは、12 年間滞在の後、明治 27 (1894) 年に帰国した。フェスカ帰国後も彼の弟子および弟子の弟子たちによってこの事業は引き継がれ、昭和 12 (1937) 年に陸奥国を除く全国の土性図が完成した。最後の陸奥国(青森県)が完成したのは戦後の昭和 23 (1948) 年であった。この間、明治 38 (1905) 年に、この事業は地質調査所土性課から当所の母体である農事試験場(明治 26 年設立)土性部に移管された。農事試験場では、国別土性図のほかに朝鮮土性図や大日本土性略図の編纂も行なわれた。

地質調査所および農事試験場で作製された土性図の目録を表 1~3 に示した。これらのうち、残念ながら当所に所蔵していない国別土性図は、地質調査所で発行した阿波国、出雲・岩見・隠岐、大隅・薩摩、大隅国諸島、肥前国東北部である。このうち阿波国と出雲・岩見・隠岐は説明書が存在することから、土性図の欠落は明らかである。しかし、大隅・薩摩、大隅国諸島、肥前国東北部については、後に農事試験場でも発行されている。大日本土性略図は関豊太郎によって全国を 16 に分割して編纂されたものであるが、第 6 葉と第 9~16 葉が欠落している。

マックス・フェスカと日本各地の土性図については、農環研ニュース No. 53~54 に紹介されているので参考にされたい。

これらの土壌図は、土性図と称されるように土性(砂、シルト、粘土の重量割合で区分された粒径組成)と地質で区分されている。いわゆる農林地質図の一種である。土壌を独立した自然体としてとらえる近代土壌学は、ちょうどフェスカが日本に滞在していた 19 世紀末にロシアの V.V.ドクチャーエフ(1846~1903)によって創始された。その後、このロシア学派の土壌観は世界に広がり、今日の土壌学の基礎をなしている。日本にもヨーロッパやアメリカを通じて通過国の土壌観をミックスしながら、あるいはロシアから直接伝えられた。今日の土壌分類体系である農耕地土壌分類や林野土壌分類は、近代土壌学の考え方に基づいて作られ、戦後の土壌図はこれらの分類体系にしたがって作製されている。したがって、目録の土性図は、戦前にわが国で唯一の土壌図としてその役割を果たし、今日の土壌調査・分類研究を支えてきた歴史的遺産である。

* 農業環境インベントリセンター
Natural Resources Inventory Center

** 農業環境インベントリセンター 土壌分類研究室
Soil Classification Laboratory, Natural Resources Inventory Center
インベントリー, 第 1 号, 59-62 (2002)

表1 国別土性図 (その1)

番号	土性図名	土性図発行年月	説明書発行年	発行所	調査担当者	製図担当者	葉数	図葉所蔵セット	集合同所蔵数(軸内数)	説明書所蔵数	備考
1	甲斐国	明治18年	明治20年	地質調査所	恒藤規隆・大内元・フェスカ	市原正秀			1	2	10万分の1
2	下野国東部	明治19年	明治21年	地質調査所	青山元・高橋昌・フェスカ	市原正秀			2	4	10万分の1
3	相模全図武蔵国南部	明治20年	明治21年	地質調査所	渡邊朔・今井秀之助・フェスカ	吉田晋・市原正秀			2	1	10万分の1
4	武蔵国北部	明治21年	明治21年	地質調査所	恒藤規隆・フェスカ	菅沼盈之			1	2	10万分の1
5	信濃国	明治23年	明治23年	地質調査所	松岡操・今井秀之助・フェスカ	菅沼盈之・鈴木民作			1	1	10万分の1
6	安房上総全国・下総国南部	明治23年	明治23年	地質調査所	鴨下松次郎・フェスカ	吉田晋			1	1	10万分の1
7	下野国西部	明治23年	明治23年	地質調査所	青山元・フェスカ	高麗虎			1	1	10万分の1
8	陸前全国・磐城国北部	明治23年	明治24年	地質調査所	恒藤規隆・フェスカ	吉田晋			2	4	10万分の1
9	岩代全国・磐城国南部	明治23年	明治24年	地質調査所	鴨下松次郎・フェスカ	高麗虎			2(1)	4	10万分の1
10	上野国	明治24年	明治24年	地質調査所	松岡操・フェスカ	吉田晋			1	5	10万分の1
11	肥後国	明治24年	明治24年	地質調査所	恒藤規隆・フェスカ	東京製図会社社員調整			2(1)	4	10万分の1
12	常陸全国・下総国北部	明治24年	明治25年	地質調査所	平田孝次郎・フェスカ	東京製図会社社員調整			2	1	10万分の1
13	備後・安芸	明治25年	明治25年	地質調査所	山中壽彌・フェスカ	鈴木民作			2	4	10万分の1
14	因幡・伯耆	明治25年	明治25年	地質調査所	早川元次郎・フェスカ	高麗虎			2	3	10万分の1
15	陸中国	明治25年	明治26年	地質調査所	青山元・小林房次郎・フェスカ	吉田晋			2	5	10万分の1
16	加賀・能登	明治25年	明治26年	地質調査所	三成文一郎・フェスカ	若林平三郎			1	2	10万分の1
17	周防・長門	明治26年	明治29年	地質調査所	東條平二郎・フェスカ	吉田晋			1	2	10万分の1
18	河内・和泉全国・摂津国東部	明治26年	明治26年	地質調査所	松岡操・フェスカ	高麗虎			4	2	10万分の1
19	阿波国	明治26年	明治26年	地質調査所	鴨下松次郎・フェスカ	高麗虎			0	3	10万分の1
20	老岐・対馬全国・肥前国西南部	明治26年	明治26年	地質調査所	小林房次郎・フェスカ	吉田晋			1	3	10万分の1
21	若狭・越前	明治27年	明治27年	地質調査所	早川元次郎・フェスカ	吉田晋			3	4	10万分の1
22	近江国	明治27年	明治27年	地質調査所	鴨下松次郎・フェスカ	高麗虎			1(1)	2	10万分の1
23	出雲・石見・隠岐	明治27年	明治28年	地質調査所	三成文一郎・フェスカ	高麗虎			0	2	10万分の1
24	讃岐国	明治28年	明治28年	地質調査所	松岡操	鈴木清忠			1	1	10万分の1
25	豊後全国・豊前国東南部	明治28年	明治37年	地質調査所	山中壽彌・恒藤規隆・フェスカ	佐々木信堅・高麗虎			1	2	10万分の1
26	遠江・駿河・伊豆	明治28年	明治30年	地質調査所	新莊三郎・松岡操・フェスカ	高麗虎			2(1)	4	10万分の1
27	羽後国	明治29年	明治30年	地質調査所	鴨下松次郎	吉田晋			3	0	10万分の1
28	尾張・三河	明治29年	明治30年	地質調査所	三成文一郎	高麗虎・鈴木清忠			3	3	10万分の1

表1 国別土性図（その2）

番号	土性図名	土性図発行年月	説明書発行年	発行所	調査担当者	製図担当者	葉数	図葉所蔵セット	集合図所蔵数(軸内数)	説明書所蔵数	備考
29	尾張・三河	明治29年	明治30年	地質調査所	三成文一郎	高麗虎・鈴木清忠			3	3	10万分の1
30	播磨・但馬・淡路 全国・摂津西部・ 丹波国西南部	明治29年	明治30年	地質調査所	小林房次郎	高麗虎			2	3	10万分の1
31	大隅・薩摩	明治30年	明治30年	地質調査所	早川元次郎	吉田晋・高麗虎			0	0	10万分の1
32	大隅国諸島	明治30年	明治30年	地質調査所	早川元次郎	吉田晋・高麗虎			0	0	10万分の1
33	大和国	明治30年	明治31年	地質調査所	松岡操	吉田晋			2(1)	4	10万分の1
34	日向国	明治30年	明治36年	地質調査所	三成文一郎・恒藤規隆	高麗虎			1	3	10万分の1
35	美作・備前・備中	明治31年	明治34年	地質調査所	松岡操	吉田晋・高麗虎			2	1	10万分の1
36	羽前全国・羽後 国飽海部	明治32年	明治34年	地質調査所	鴨下松次郎	吉田晋・高麗虎			1	1	10万分の1
37	越中国	明治33年	明治37年	地質調査所	三成文一郎・小林房次郎・鈴木重助	高麗虎			1	3	10万分の1
38	肥前国東北部	明治36年	明治37年	地質調査所	松岡操	佐々木信堅			0	0	10万分の1
39	土佐国西南部	明治40年3月		農事試験場	鴨下松次郎	佐々木信堅	6	33	0		10万分の1
40	越後国西南部	明治43年3月		農事試験場	三成文一郎	佐々木信堅	9	24	3		10万分の1
41	筑前・筑後・豊前 国西北部	明治43年3月		農事試験場	小林房次郎	佐々木信堅	0	0	1		10万分の1
42	越後国東北部・ 佐渡国	明治44年3月		農事試験場	三成文一郎	佐々木信堅	9	20	2		10万分の1
43	肥前国東北部	明治45年3月		農事試験場	三成文一郎	佐々木信堅	4	90	1(1)		10万分の1
44	大隅国諸島	明治45年3月		農事試験場	鴨下松次郎	佐々木信堅	4	39	2(1)		20万分の1
45	大隅薩摩国	明治45年3月		農事試験場	鴨下松次郎	佐々木信堅	9	24	0		10万分の1
46	山城丹後全国及 丹波国東北部	明治45年3月		農事試験場	小林房次郎	佐々木信堅	6	30	1		10万分の1
47	土佐国東北部	明治45年3月		農事試験場	鴨下松次郎	佐々木信堅	6	26	0		10万分の1
48	伊予国東北部	大正2年3月		農事試験場	三成文一郎		6	39	0		10万分の1
49	伊予国西南部	大正3年3月		農事試験場	三成文一郎	佐々木信堅	6	26	0		10万分の1
50	和歌山県	大正9年10月		農事試験場	三成文一郎・監入松三郎・櫻井凌亮		2	26	2(1)		10万分の1
51	島根県那賀郡	大正12年3月		農事試験場	三成文一郎	佐々木信堅	1	26	0		10万分の1
52	岐阜県美濃国	昭和4年3月		農事試験場	三成文一郎・櫻井凌亮・鴨下寛		9	24	1		10万分の1
53	岐阜県飛騨国	昭和7年3月		農事試験場	鴨下寛・岡田俊次	佐々木信堅・吉田篤次	6	24	2		10万分の1
54	三重県北部(伊賀 全国・伊勢北)	昭和10年6月		農事試験場	鴨下寛・岡田俊次	吉田篤次	4	48	0		10万分の1
55	三重県南部(伊勢 国南部・志摩 全国・紀伊国南 北牟婁郡)	昭和12年3月		農事試験場	鴨下寛・岡田俊次	吉田篤次	6	26	1		10万分の1
56	青森県	昭和23年		農事試験場	鴨下寛	吉田篤次	14	32	0		10万分の1

表2 朝鮮土性図

番号	土性図名	土性図発行年月	説明書発行年	発行所	調査担当者	製図担当者	葉数	図葉所蔵セット	集合図所蔵数(軸内数)	説明書所蔵数	備考
1	朝鮮土性図	明治44年3月		農事試験場	嶋下松次郎・三成文一郎・小林房次郎・鈴木重礼		12	18	1		50万分の1

表3 大日本土性略図

番号	土性図名	土性図発行年月	説明書発行年	発行所	調査担当者	製図担当者	葉数	図葉所蔵セット	集合図所蔵数(軸内数)	説明書所蔵数	備考
1	大日本土性略図第1葉			農事試験場	関 豊太郎				0		50万分の1
2	大日本土性略図第2葉	大正13年3月		農事試験場	関 豊太郎	佐々木信堅			33(1)		50万分の1
3	大日本土性略図第3葉	大正13年6月		農事試験場	関 豊太郎	佐々木信堅			33(1)		50万分の1
4	大日本土性略図第4葉	大正14年1月		農事試験場	関 豊太郎	佐々木信堅			32(1)		50万分の1
5	大日本土性略図第5葉	大正14年5月		農事試験場	関 豊太郎	佐々木信堅			33(1)		50万分の1
6	大日本土性略図第6葉			農事試験場	関 豊太郎				0		50万分の1
7	大日本土性略図第7葉	大正15年7月		農事試験場	関 豊太郎	佐々木信堅			31		50万分の1
8	大日本土性略図第8葉	大正15年3月		農事試験場	関 豊太郎	佐々木信堅			29(1)		50万分の1
9	大日本土性略図第9葉			農事試験場	関 豊太郎				0		50万分の1
10	大日本土性略図第10葉			農事試験場	関 豊太郎				0		50万分の1
11	大日本土性略図第11葉			農事試験場	関 豊太郎				0		50万分の1
12	大日本土性略図第12葉			農事試験場	関 豊太郎				0		50万分の1
13	大日本土性略図第13葉			農事試験場	関 豊太郎				0		50万分の1
14	大日本土性略図第14葉			農事試験場	関 豊太郎				0		50万分の1
15	大日本土性略図第15葉			農事試験場	関 豊太郎				0		50万分の1
16	大日本土性略図第16葉			農事試験場	関 豊太郎				0		50万分の1
17	大日本土性略図(全国)			農事試験場	関 豊太郎				38		500万分の1

問合せ先

農業環境インベントリーセンター 土壌分類研究室 中井 信

電話：0298-38-8353, E-mail：nakaimkt@niaes.affrc.go.jp